

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成19年9月 18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671600241
法人名	有限会社 健勝館
事業所名	グループホームひやくぼ
所在地	〒621-0126 亀岡市西別院犬甘野小谷口11番地 (電話) 0771-27-8920

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-21 八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年8月21日	評価確定日	平成19年10月17日

## 【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 22 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	6.55 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 350,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は一日	1500 円	

### (4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 86.88 歳	最低 81 歳	最高	93 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	亀岡病院 柿花診療所
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

農村地域にあり、豊かな自然に囲まれたホームです。入居者は、こののどかな場所で、自由に、のんびりと、自分らしいペースで生活されています。ホームは民家改造型で、平屋造りで、庭が広く、高齢者にとっては懐かしい気持ちになれ、グループホームは家であるということ、改めて感じさせてくれます。入居者と職員は、毎日多くの会話をもち、共に喜び、泣き笑いしながら、同じ時間を過ごされています。入居者の表情が、穏やかで、日常を何うと、ホームという家で、家族として仲良く生活されている様子が伝わってきます。職員間でも話し合いを重ねられ、同じ思いを共有しながら、ケアされています。入居者に対する思いが一緒なので、一体感が溢れています。毎年、一泊旅行をされていますが、今年の旅行は二泊三日で出かけ、準備段階から、熟慮を重ねられた結果、楽しい思い出ができて入居者に喜ばれました。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、話し合ったことやアドバイス、職員間での気付きは、ケアを振り返る良い機会となり、改めて、今までのケアに自信を持ち、今後も更に向上したいと考えられています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員全員の気付きを取り入れられています。自己評価をすることで、項目の理解ができ、今後のケアに活かしていきたいとの思いができました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームからは、取り組み状況や、認知症の話等をし、地域の方々から、様々な意見や、情報をもらえる機会とされています。今後も、積極的に活用し、地域とのつながりを強めたいと考えられていて、まずは、ホームのパンフレットを作成し、地域に配布する予定です。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、請求書の送付時には入居者の様子や、状態を書いた個人ごとの手紙を同封しています。様々な、意見や要望に応えられるように、家族の訪問の際には、話し合う時間を多く持つようにされています。ホームの玄関には意見箱も設置されており、相談窓口も明確にされています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域からの理解も得てきたところであり、気軽に声をかけてくださる方も増えてきました。管理者の人脈が広く、職種の違う方々からの協力も多くあります。今後は、ホームでの催しに、地域の方にも参加してもらえるような取り組みを期待します。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ホームは家、利用者は家族」の理念は、入居者一人ひとりにとって、ひやくぼが、自分の家であり、居場所としての確保がされていることと、その中で、自由に、自分らしく過ごされるようにとの思いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けてのケアを提供しているし、職員全員の共有するところである。日々の中で、その都度その都度、話し合いながら、愛情を持って取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者の生家ということもあり、顔なじみの方もあり、地域代表者からの協力もある。入居者が、子供たちに話しかけている場面も見られる。ホームの畑も共有で使ってもらっている。ホームのパンフレットを作り、配布できるように準備中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価について、職員全員で話し合ったことを踏まえて、改めて、自分たちの提供しているケアに自信を持つことが出来た。改善点としては、前向きに考えることにつながった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、地域包括センターの職員、行政、家族、ホームが集まり、運営推進会議を開催している。ホームの取り組みや、思いを伝えたり、認知症についての話をしたり、事業所からの情報提供の場となっている。また参加者からは様々な意見も聞く機会になっている。	○	今後も、多くの地域の方に参加いただき、活発な会議となるような働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームからは、相談や連絡ごとに足を運び、協力関係を密にしたいと努力しているが、行政からの、アドバイスが少ない状況である。運営推進会議には、行政からの参加もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書の送付時には入居者の様子や、状態を書いた手紙を同封している。電話での連絡は頻繁である。家族の訪問時には、会話の時間を多くとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関には意見箱を設置している。ホーム側や行政の相談窓口も文書に明記している。家族には、気軽に話していただけるように働きかけている。	○	より、家族の思いが把握できるように、満足度調査的な、項目を定めたアンケートをされてはどうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係作りを大切にしている、何時も同じ職員からケアを受けられるようにしている。実際、去年の訪問の際と、同じ顔ぶれであった。新人が入った場合は、紹介し、慣れ親しんでもらえるように対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を利用し、順次参加できるようになっている。受講した研修は、ホーム内では、報告書を資料と共に回覧して、共有を図っている。他のグループホームへ行ったりもでき、見聞を広める機会になった。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、会議や研修に参加し、情報交換している。地域包括支援センターからも協力がある。他事業所の職員とも連絡を取り合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来てもらい、他の入居者と一緒に過ごしてもらったり、お試しの期間もとっている。家族とは、話し合いに時間をかけていて、安心して入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、一緒に過ごしながらか、一緒に泣き笑いし、お知恵を拝借したりしている。実際、教えてもらうことが多く、生活する中で、職員も成長している感じである。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの気持ちや、意向をケース記録に書きとめ大切にしている。常に希望を聞いて行動しているが、意思確認が困難な方には、特に、本人のペースを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や、本人の意見や希望を採り入れ、目標を記載し、ホームでの生活に密着した計画をたてている。医療面でも、医療機関の指示を受け、計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとに、カンファレンスを行い、計画の評価を話し合い、モニタリングにつなげ、見直しをしている。状態の変化にはすぐに対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助をしたり、家族からの要望には、柔軟に対応している。入居者は自由にくりしており行動規制はしていない。家族のホームでの宿泊も可能である。マイクロバスでの2泊旅行もできた。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診が月に一回あり、受診が必要な時には、協力医療機関に通院している。緊急時には、24時間連絡体制があり、すぐの対応も可能である。電話による指示もあり、必要時には、医療機関から、他の医療機関へつないでくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルについては家族の同意を得ており、意向についてもあらかじめ把握している。その時になれば、家族や、医療機関と相談の上、ホームで緩和ケアをどうか話し合い、意向に添って対応したいと考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方を理解した上での声かけ、接し方をしている。個人情報保護の観点から、漏洩がないように、記録物は、事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を決めずに、自由な暮らしの支援をしている。就寝時間や、起床時間、入浴についても自由であり、入居者は、自分のペースで過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は、その日に考え、調理、食事、後片付けと、出来る方と一緒にやっている。明るい食事時間で、笑い声が聞こえている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前から、夕食前くらいまでなら、自由に選んでもらい希望を尊重して、ゆっくりと入浴してもらっている。お風呂の好きな方には、毎日でも可能である。今後は、夜間入浴もしたいと考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花の好きな方や、家事の得意な方等、一人ひとりの得意なことや好きなことをしてもらえるように、その方の好みや、生活歴を把握し、力を発揮できるような場面作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭が広く、一人で自由に出入りされ、草むしりをされたり、日光浴をされたりと、思い思いに過ごされている。弁当持参で、遠出したり、2泊で旅行もでき、楽しい時を過ごされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。庭の出入りは自由にされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは、避難訓練をし、確認し合っている。防災対策にも取り組んでいる。消防士の知り合いからは、緊急時のアドバイスももらっている。	○	運営推進会議を利用し、地域の方から協力してもらえるように、働きかけられてはどうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は把握し、記録に残している。摂取困難な方には、おかゆにしたり、キザミにしたりしており、状況に応じて食器の対応もしている。嗜好にも対応し、個人のメニューを出したりもできる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型のホームで、外観や、内装も家と同じである。皆の集まるリビングには、置物や、ファブリックにも、入居者が馴染めるようにとの配慮があり、料理のおいしそうな臭いがただよい、笑い声が溢れている。庭の花を摘んで、テーブルの上に生けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に移動ができるように配慮しながら、使いなれたなじみの物やこだわりの物を持ってきてもらい、その人らしい、居心地のいい居室作りをされている。		